

JAC北九だより NO.38

(平成19年第6号)

社団法人 日本山岳会 北九州支部 Kitakyushu Section of The Japanese Alpine Club 発 行: 社団法人日本山岳会北九州支部 事務局: 北九州市門司区新原町12-27

関 口 興 洋 方

TEL·FAX 自宅 093-382-6436 携帯 090-8919-6776

発行人:大庭常生

編集人:関口興洋・伊藤久次郎

全国支部懇談会開催のご案内

支部長 大庭常生

平成20年(2008) 度の全国支部懇談会は、北九州支部主管で開催することになりましたので次の通り、ご案内申し上げます。

日 程:平成20年10月11日(土)~12日(日)

会 場:ホテルニュータガワ (北九州市小倉北区古船場 3-46、tel:093-521-7000)

11日の懇談会及び12日の山行計画等の詳細につきましては、今後、確定次第ご案内しますのでよろしくお願いいたします。

来年の北九州開催に備え、参考資料の仕入れ 第23回全国支部懇談会 岩手支部懇に参加

No.13643 関 口 興 洋

今年は、岩手支部主管で10月6日(土)~7日(日)の日程で八幡平の山麓で開催された。6日、福岡空港から仙台空港へ飛び、仙台から東北新幹線で盛岡へ。送迎のバスを待つ間、駅前の高層ビル展望台へ上がり、快晴の秋空の下、近くに岩手山、遠くに秋田駒、早池峰などの名峰が眺められる。岩手山のどっしりとした山容が印象的。岩手山の裾野をぬって北上し、会場の八幡平ハイツへ直行。岩手山は眺める方向が変わるたびに山容が変化するのが面白いそれにしても、日の短い秋に福岡から日没前に八幡平に到着できるとは、大変便利な世の中になったものと感心する。

今回の参加は、来年の北九州支部主管の全国支部懇談会設営に関し、参考材料を仕入れることが最大の目的である。



宮沢賢治研究会会長亀井茂先生の講演



盛岡駅前の高層ビル展望台から見た岩手山(百名山)

「宮沢 賢治」にまつわる地元でしか聞けない珍しいお話にはまり込む。朴訥とした語り口になんともいえない、いい雰囲気を味わうことができた。

NHKテレビで放映された「どんど晴れ」にでてくる遠野の民話なども一部引用され興味深内容であった。

(参加者)

11427 日 向 祥 剛 13499 伊藤 久次郎

13643 関口興洋 13986 室津健次

13992 山田武史

岩手支部懇 記念山行

岩手の山々を登って

No.13992 山 田武 史

10月7日(日)快晴 記念山行「源太ガ岳」(1,384M)

岩手支部主催の、全国支部懇談会の記念山行は、Aコース(源太ガ岳)、Bコース(姥倉山)、及び、散策コースに分かれており、わが北九州のメンバーは当初は、全員Aコースであったが、伊藤副支部長は術後故、無理をしない事として散策コースに変更、又、日向さんは、急用発生により山行は不参加となったので、結局、関口、室津、山田の3名が源太ガ岳に登った。

八幡平ハイツ (07:00) --タクシ ー--登山口 (07:15) --源太ガ岳 (0 9:40) --大深岳 (10:00) -昼食-(1 0:30) -源太ガ岳 (10:50) --登山口 (13:05) --八幡平ハイツ(14:00)

前夜の懇親会で飲みすぎた訳で はないのだが、ホテル出発06:30の 処を07:00と思い込み、玄関に出て みると、バスは既に出発しており、 散策コースに行く人達が、出発08: 00との事で、数人が、ちらほら見 えるのみ。急遽、タクシーを呼び、 登山口に駆け付けたが、誰もおら ず、我々は、15分遅れて登山口を スタート。ゆっくり行こうと、口 では言うものの、ついつい、歩行 のリズムは上がりがち。歩き始め て約20分後に、最後尾の人達に追 いつき、遅れを詫びる。われわれ 北九州支部の位置は、先頭グルー プとの事で、約100名の長蛇の列 の先頭グループに加わる為に、皆 が休んでいる合間に追い抜き、漸 く、先頭グループに合流。そこで、 改めて、点呼を取られていたリー ダーにお詫びし、登山参加者名簿

の、我々の名前にチェックが入り、 何とか一件落着となったが、休憩 なしに歩いた事もあり、ヒヤ汗共 々、一気に汗が噴き出した。以降 は、心地良い登行のリズムとなり、 紅葉を楽しむ心の余裕も出来た。 源太ガ岳の山頂に至る斜面は、特 に、紅葉が進んでおり、松の緑と、 黄葉、紅葉のコントラストはすば らしく、九州の山では見られない 色彩にて、流石、東北の山々は違 うと実感し、感激でした。源太ガ 岳からの展望も、又、素晴らしく、 明日登る予定の岩手山が、南方眼 前に聳えその右手遠方に、岩手県 第2の早池峰。北には、鳥海山が 雲の上に頂をみせており、東には、 特徴あるピラミダルな茶臼岳。頂 上にて、強風を受けながら、慌し く記念写真撮影後、高原の1本道 を流れに従って進むと、やがて、 本日の最終点である大深岳(1.51 4M)。相変わらず、風は強い。こ こで昼食。ホテルにて支給された 弁当を、そそくさに、胃袋にほう り込み、順次帰路についた。登山 道は、細い1本道故、約100名 のメンバーは一列縦隊となり、歩 行中も、前後の人との接触も限ら れてくるが、我々の前後に、青森、 秋田、岩手、越後各支部の方がお られたが、その会話を聴くと、九 州で耳にする言葉と違うだけに、 聴いているだけで、楽しかった。

八幡平ハイツに戻り、一風呂浴 びた後、15:20よりホテル前にて 解散式が行われ、来年度全国支部 懇談会開催の北九州支部へのバト



八幡平ハイツ玄関で。記念山行出発前 の4人

ンタッチを以って、終了した。

われわれ北九州支部の4名(伊藤、 関口、室津、山田)は、明日の岩手 山登山に向けて、今夜の宿「松川荘」 に移動した。

10月8日(月) 雨 八幡平(1.613M)

松川荘 (08:30) --タクシー--見 返峠 (09:00) --八幡平登山--見返 峠 (10:00) --タクシー松川交通セン ター (11:50) --バス--盛岡/小岩井 農場 (14:30~15:20) --バス-休暇 村岩手網張温泉 (16:00) 泊



雨の八幡平頂上(1,613m)にて

本来は、岩手山(2,038M)に登る 予定だったが、朝からの雨は止みそ うもない。この時期の雨天は、山頂 では冬山に一変するので危険との、 岩手支部の方々のアドバイスもあっ た為、急遽、予定を変更して、八幡 平(日本100名山)に登った。

タクシーをチャーターして見返峠まで行き、雨の中をレインウエアに身を包み約1時間の登行だったが、登山道は石畳とコンクリートで、綺麗に整備されており他の100名山とは、趣を異にする山だった。展望台に上がったがガスにより視界ゼロ。帰路、八幡平山頂より下方へと、紅

葉が進んでいる景色、又、その変化 を、タクシーの車窓より堪能した。

やがて、紅葉が山すそ迄降りて きた時は、山頂は冬山に変わって いるのだろう。

10月9日(火) 快晴 姥倉山(1.517M)

網張温泉(07:50)--スキー場リ フト乗り場 (08:00) --リフト終点 登山口(08:40)--犬倉山(09:10) --姥倉山(10:40) --リフト終点登 山口(12:00) --リフト乗り場(12

この日は、昨日とは打って変わ っての快晴であり、伊藤さんの体 調も良好との事なので一昨日の記 念山行でのBコースの登頂点であ る、姥倉山を目指す事とした。

スキー用のリフトは、紅葉シー ズンのみ、午前8時より運行して おり、我々はこのリフトを3本乗 り継いで、リフト終点まで、歩け ば2時間の所を、わずか30分にて 犬倉山(1,408M)の麓に着いた。

登行後、約5分で展望台がある が、ここからの景観は、今回の3 日間の登山の中で最高だった。

遥か彼方に聳える岩手山を背景 として、眼前の犬倉山の、クマザ サで覆われた一面緑の斜面には、 ナナカマド、カエデ、ダケカンバ 等の紅葉、黄葉が映え、点在する オオシラビソの濃緑とも相俟っ て、このコントラストは、素晴ら しかった。

写真を何枚か撮った後、姥倉 山を目指した。登山道は、歩き やすい。高度を上げるにつれ、岩 手山も、随分近くなって来た。こ の山は、見る角度によって別の山 と思える程、姿、形が変化するの が面白い。

予定通り、姥倉山の頂上に立ち、 そして、岩手山をまじかに眺め、 いつか又、機会があれば登りたい ものと、心に強く思いつつ、下山 の途についた。

山行参加メンバー

13499 伊藤 久次郎 13643 関口 興洋 13986 室 津 健次 13992 山田 武史 以上



ックに記念撮影し、明れ」に登場した1 した岩毛の東京 路 ЩΈ 平とど

宮崎ウエストン祭 第23回 11月2日~3日 北海道支部11人初参加 南北交流登山

北九359 八 木 國 子



宮崎に向かう途中での阿蘇外輪山で

今年の宮崎ウエストン祭は大賑わ い。南北交流で北海道支部も参加。 先ずは11月1日到着組の長谷川支部 長、沼崎、助田夫妻と小倉で出合い 集合場所の道の駅おこしかけで北九 州支部の面々と合流し本日の名所め

ぐりへと。耶馬溪、四季彩ロードを 通り長者原ビジターセンターへ。途 中大庭支部長の別荘へ立ち寄り昼食 をする。

九重の山々の紅葉を楽しみ大観峰 で阿蘇山、九重の山々に北海道支部 の人達だけでなく今更ながら大自然の すばらしさに心打たれた。

次に阿蘇中岳へと足を延ばしたが、 運悪く火山ガスが多くロープウエイ ー駅まででガッカリ。その後は一路 本日の宿泊所「五か所公民館」へ。 熊本空港着の北海道支部の方々7名 も到着し本日のイベント前夜祭会場



前夜祭でのキャンプファイヤー(北九州支 部のお嬢さん? たち)

へ。神事の後 神楽も催され待望の カッポ酒に体を温め、今年一番の寒 さにキャンプファイヤーの炎が心 に、体にと暖かい。宿泊所に帰り北 海道、熊本、宮崎、北九州各支部の 懇親会、和気合々の内にお開き床に 着く。

11月3日すごい霜です。真っ白。 水溜りに氷がはり空は青空、はりつ めた空気の中三秀台の会場へ。阿蘇



雲一つ無い祖母山(1,756.5m)山頂に勢揃いした、宮崎、熊本、北海道、北九州各支部の皆さん

山、九重連山、祖母山とめったにめ ぐり会えないようなすばらしい天気 に感謝しながら山々を堪能した。式 典後登山口へ。北海道、熊本、宮崎、 北九州各支部の方々60余名が4班 に別れ各支部の方と交流をしながら 和やかに頂上へと。途中北海道支部 の助田さんがゴミを拾われながら登 る姿を見て日頃の北海道支部のすば らしさを間のあたりにして心新たにしま した。 宮崎の方々もこのような一日中すばらしい晴天はめずらしく、祖母山の神々が遠く北の大地より来られた客人に最高のおもてなしをされたとの話、宮崎支部の方がお話され無事祖母山登山終え北海道支部の方々は次なる山'高千穂'の地へと名残を惜しみながら出発されました。この二日間遠くから来られた方のもてなす最高の青空にありがとうの言葉を添えます。

宮崎ウェストン祭参加者 (北九州支部のみ)

大庭 常生 原 広美 伊藤久次郎 西村 信子 浜松 礼子 高畠 拓生 関口 興洋 藤田 傳 西村 俊二 室津 健次 山田 武史 大木 康子 八木 國子 森本 信子 大内喜代子

計15人

宮崎ウェストン祭に参加して

記念バッジに感激!

No.北九369 末 次 幸 子

一面真っ白に霜が降りた五ヶ所 高原"三秀台"・ひんやりとした 空気、今年一番の冷え込みだった とか!

その分澄んだ空気・雲一つない 青空・見事な秋晴れを予感させる 朝の中、ウエストン祭神事が行わ れました。

その名の通り"三秀台"からの展望は、阿蘇の山々・久住連山・目の前に堂々の祖母山。祖母山頂からは360度の大展望、阿蘇・九重連山の他、遠くに由布岳・霧島連山・市房山・また迫力ある姿を見せている傾山、私の知っている限りの山々の名

前を連ねましたが、本当に素晴らし い展望でした。参加された北海道支 部の方はじめ熊本・宮崎・北九州支 部会員の方々の素晴らしい!素晴ら しい!の声・声でした。

ウエストン祭初参加の私、どんな 事が行われるのか、期待で胸を膨ら ませながら、神事の準備を横目に写 真を撮ってもらったり、360度の見事 な展望を楽しんだりしながら、式典 の開始を待ちました。

式典開始・ウエストン碑鐘の合図 に神事が開始され、定番の来賓の挨 拶等々、その中で五ヶ所小学校児童 の参加は初々しく、感じました。



ウェストン碑に献花する 五カ所 小学校 の生徒

前夜祭(2日)でも感じたのですが、村全体で、このウエストン祭を大切に、年を重ねて23回目の今年を迎えている事に、胸が篤くなる思いでした。

それから、参加賞!これがまた 嬉しかったです。

"2007年11月3日・ウエストン 碑鐘と祖母山"が刻まれた記念の バッチです。この参加賞は、大感 激でした。

神事の終了後、三々五々北谷登 山口へ! 祖母山への記念の登山 です。約50名の南北支部会員参加 で四班に分かれ10時30分頃登り 始めました。一合目・二合目と、 合目毎に支柱があり、励みになり ました。途中の紅葉も、見事でし たが、何より、朝霜の勢か、雲一 つ無い真青な空、秋晴れの中での 爽やかな記念の登山は素晴らしか ったです。

4時45分頃無事下山。北海道支 部の方を宮崎支部の方に託して、



記念バッジ(横3cm×縦2.5cm)

登山口で解散、来年の再会を誓っ て各支部それぞれに名残惜しい挨 拶での、解散でした。山岳会支部 交流の素晴らしいシーンでした。

北海道支部の方をお迎えしての 四県縦断紅葉ドライブ、前夜祭(2

日) (神事・夜神楽・かっぽ酒・ 夜店・キャンプファイヤー)、3 日朝ウエストンを偲んでの神事、 記念の祖母山登山・・・・・四 支部親睦交流会を肌で感じる事が 出来ました。

私が山岳会に北九州支部会員と して、名前を連ねている事は、気 持ちも新たにと思うと同時に、北 九州支部会員として恥じない山行 を心掛けねばと、思いました。

秋晴れの爽やかな二日間、本当 にありがとうございました。

裏銀座山行記

高瀬ダム〜烏帽子〜雲の平〜双六〜笠ガ岳〜槍見温泉

No.13520 西 村 信 子

北アルプス槍ヶ岳から眺めた秀麗な笠 ヶ岳、穂高岳山荘より夕日に染まる 笠ヶ岳を見て、いつかは登ろうとの 想いが今年やっと実現しました。そ れも裏銀座縦走とのセットで。以下 はその報告です。

9月8日 (土)、東京で甥の結婚式 があり出席後、9日信濃大町で同行 の立石さん、佐藤さんと合流。山岳 博物館を見学し、明日からの長丁場 に備え、行動食などを買い求めて、 駅近くの山荘「七倉荘」に泊まる。

※ 1日目、10日(月) 曇り時々雨

七倉ゲート (6:30) →高瀬ダム (7 : 05) →濁沢登山口 (7:40~7:50) → 三角点(10:25)→烏帽子小屋(12:1 [0) →鳥帽子岳ピストン

午前5時ごろより雨が降り始め、 雨具を着て七倉ゲート6:30開門に合 わせて予約のタクシーに乗る。高瀬 ダムへ着く頃には青空が覗き、出発 時に三大急登の一つであるブナ立尾 根のことを考えて雨具を脱ぐ。濁沢 登山口で小休止。鳥帽子小屋まで120 Omの標高差。三角点まであえぎなが

らも順調に進む。ここで早めの昼食 の予定だったが、「ブト」のような 小さな虫が飛び交い、とても食事の 気分ではない。尾根上で前日買い求 めた「おやき」を食べ、その頃より ポツポツと雨が降り始める。高瀬ダ ムより5時間で烏帽子小屋着。雨が 小降りになるのを待って烏帽子岳 へ。雨も止み、剱岳などの展望を楽 しみました。

※ 2日目、11日(火) 晴れ夜より雨

烏帽子小屋(5:05)→野口五郎岳 (8:35~9:00) →竹村新道分岐(9 : 30) →水晶小屋 (11:57~12:17) →水晶岳(12:54~13:01)→水晶 小屋 (13:35) →岩苔乗越 (14:28) →祖父岳(15:24~15:28)→雲の 平山荘(16:44)

日の出や槍ヶ岳を見ながら進む。 野口五郎岳の手前で雷鳥が遊んでい たので撮影タイム。8:35山頂到着。 快晴。360度の展望。槍ヶ岳や穂 高連峰、これから行く水晶岳、笠ヶ 岳と申し分のない大パノラマ。約3 0分の休憩、少しオーバータイムで



水晶岳頂上にて

した。水晶小屋でおしるこを食べ、 ザックをデポさせてもらい水晶岳を ピストン。2日前に完成したという 水晶小屋は木の香も漂い明るい小屋 でした。岩苔乗越付近は日本海に注 ぐ黒部川の源流です。祖父岳を通過、 キャンプ場を経て直に往けるはず が、植生保護の為通行禁止になって おり、ぐるっと巻いてスイス庭園の 木道を歩いてようやくアルプスの奥 座敷、雲の平山荘に到着。今日は休 憩も含めて11時間40分の長歩き でした。

※ 3日目 12日(水) 雨のち晴れ

雲の平山荘 (5:25) →祖父岳 (7:02) →ワリモ岳分岐 (8:05) →鷲羽岳 (9:14~9:38) →三俣山荘 (10:40~11:33) →三俣蓮華岳 (12:47~12:52) →双六岳 (14:12~14:22) →双六 小屋 (15:20)

昨夜18時ごろより雨が降り出したが、停滞するほどの雨でもないので朝食のおにぎりを食べ、少し明るくなるのを待って5:30出発。祖父岳、ワリモ岳分岐までは昨日歩いたコースを戻る。雨も止み、鷲羽岳に9:10到着。眼下に鷲羽池、雲上の槍ヶ岳や薬師岳、黒部五郎岳を望む。三俣山荘にて早めの昼食。ビーフカレーを頼み、食後にコーヒー。サイフォンで入れたコーヒーはとても美味しかった。三国境の三俣蓮華岳、双六岳を経由して双六小屋へ。生ビールで乾杯!

※ 4日目 13日(木)晴れ

双六小屋 (6:20) →弓折岳 (7:44) →大ノマ岳 (9:04) →秩父平 (9:33~ 10:00) →笠新道分岐 (11:58) →笠ヶ岳山荘 (13:20) →笠ヶ岳ピストン いよいよ今日は最も登りたかった 笠ヶ岳へ。温かい朝食を食べて出 発。夏にはお花の楽園であったで あろう秩父平で一休み。抜ける出 うな青空、白く輝いている岩肌が とてもマッチする。笠新道分トで 食。山容がきれい!山荘に到着。 一休みの後、山荘前にある白いご ランコで遊び、山荘真の小笠にま する、大パノラマを楽しみ、 コーヒータイム。至福のひと時で した。

※ 5日目 14日(金) 雨のち晴れ

笠ヶ岳山荘(5:30)→笠ヶ岳(5 :50)→槍見温泉(12:00)

午前中は曇りという昨夜の天気 予報が外れ、出発時より雨。本笠 にまた登り、クリヤ谷コースを下 る。雷鳥岩、錫杖岩などはガスの 中。ただひたすら下るのみ。道は 結構荒れていた。心配だった徒渉



笠ガ岳山荘玄関で

点も無事通過。計画より1時間遅れだったが12時に槍見温泉到着。標高差1900mを一気に下山しました。 汗を流し、14時のバスで高山へ。 高山〜名古屋〜小倉とJRを乗り継ぎ、帰り着きました。昨年は7月、9月と2度実行しようとしましたが、台風の当たり年で断念。ようやく実現しました。ブナ立尾根よりクリヤ谷コースを線でつなぐ、長いコースでしたが充実感のある山旅でした。

同行者 13810 西村俊二、 北九361 立石サツミ、 北九362 佐藤照美

JAC山想倶楽部企画山行

越前岳と富士山 須山古道

No.13643 関 口 興 洋



越前岳から眺めた富士(10月21日)

今年は宝永山が1707年に爆発してから300年の節目に当たること、それ以来閉ざされていた歴史ある須山古道が10年前に復活

したこと、更に日本山岳会の先達 である小島 鳥水や冠 松次郎ゆか りの勝地であることなどを考慮し て、JAC山想倶楽部(02会を母 体にした同好会)が企画した山行 に参加した際の報告である。

2007年10月20日(土) 越前岳(愛鷹連峰の最高峰、 1,504m)登山

三島駅で本日の宿である「大野路」の迎いのマイクロバスに乗車し、目的地である越前岳の十里木登山口へ向かう。参加メンバーは中川代表以下14名。

富士の頂上はうっすらと初雪に 覆われ、お天気は申し分ない快晴 ・無風。

11:00、富士を背にしながら 南の方向に緩やかに登りはじめ る。 途中、1098.5 mの3等 三角点で昼食・休憩。振り返ると 5~6合目あたりを薄い雲が鉢巻 状にとり囲んでいるが、富士の大 きな山容が真正面にますます威厳 を増して迫ってくる。

中腹の宝永山と第一火口の大き な姿がくっきりと眺められる。頂 上に近づくにつれ、立派なブナの 林が現れる。

13:30越前岳(2等三角点) に到着。昔はブナの林に覆われて いたという頂上は現在その面影 はなく裸地になっている。その おかげで富士を眺める最高の場 所である。

午後になっても気流が安定して いるせいか、上昇気流の発達が全 くない。翌日、お世話になった現 地の渡部芳郎会員によれば、こん なに気流の安定した日は年に数回 しかないとのこと。

13:45下山開始。登るときは 富士を背にしたが、下りは正面に なり見飽きない。

登山口着15:10。迎えの車で 宿へ。露天風呂の端に据えられた 一人用の展望風呂から富士を眺め る仕掛けが作られているのが珍し く、交代で櫓に登り一浴する。

懇親会が始まる前に、須山古道 復活に尽力された故渡辺徳逸翁 (JAC会員番号1784) の身内 の杉山先生の講演を拝聴する。渡 辺翁と日本山岳会の先達たちとの 交流、須山古道復活にかけた情熱 など裾野にきて初めて聞くこと が出来るお話に興味がつきなか った。

帰宅後、小島 鳥水の裾野に関 する記録を見ると、越前岳の紅葉 見物に須山村を訪れた「鴉の群」 という短編が残っている。主人公 の鳥水が御殿場停車場から、早朝、 土地の人が「大野原」と呼んでい た裾野を須山に向かって一人で歩 いていると、途中、異臭がただよ い、鴉の大群が舞い上がった。気 味が悪いので急ぎ足に通りすぎた ところ、背後から人の足音がした ので振り返ると、20歳くらいの 楽隊屋が駆け足に追いかけてき た。話をしているうちに「女が一 人、殺られてねえ」、「誰も気い注 かなかったが、鴉が騒ぐので知れ やした」・・・。

翌日、越前岳に登った後、急ぐ



宝永山の第一火口と手前が宝永山(10月21日)

ため、同じ道を引き返すとき鴉の 大群に襲われ、杖を揮いながら必 死に逃げた。「その刹那、女は殺さ れたのではない。鴉に啄き殺され たに違いないと決めた」・・・こ の短編は紀行文というより、怪奇 小説のごとき内容である。

10月21日(日)須山古道を 辿り宝永山火口へ

須山古道の入り口である水ケ塚 公園の駐車場(標高1400m)を 7:00 に出発。天候晴れ。

今日は、地元の渡部芳郎会員の ガイドで歩き出す。樹林帯が続き 森林インストラクターの平野会員 より種々説明を受ける。なかでも、 「おおいたやめいげつ」というも みじの名前が忘れられない。

1800mレベルから岳樺が現れ、 1900mレベルから黄色く染まっ たカラマツが目につくようになる。 この古道を歩いて大変興味深かか ったのは、今では使われることが 少ない「勺」という言葉が標識に 使われていることである。例えば 「二合五勺」という具合に。

吉田口、富士宮口からの登山道の 標識が現在、どのようになってい るか承知していないが・・・

カラマツの森林限界を抜けると 砂礫の道になる。歩きにくい砂礫 の道をひと踏ん張りすると、11時 第二火口の縁に出る。

第一火口周辺は、富士宮口五合 目まで車で来た観光客で賑わって

いる。宝永山 と富士の山頂 を眺めなが ら、第一火口 のベンチで昼 食の弁当をひ ろげる。風も なく真に穏や かな陽気であ る。このあた りの標高が2 400 mであ るから、ちょ うど1000m

登ったことになる。富士の頂上は 見上げるように覆いかぶさってい るが、一度はここから登ってみた いと思う。

南側を俯瞰すると、昨日登った 越前岳が眼下に入る。その奥が位 牌岳 (1458 m)。30 分ほどで 切り上げ、11:45下山開始。

第二火口の縁まで登路を戻り、 途中から第三火口への道を辿る。 この途中、カラマツの矮小化され た特異な枝ぶりに出会う。ハイマ ツのように地べたに沿って枝が伸 びている姿を見るのは初めてであ る。冬場、このあたりがいかに風 が強いかを示すシンボルであろ う。宝永山のなだらかな斜面を横 切ったあと、四辻でゆっくり休憩 する。昼寝がしたいほどのんびり とした時が過ぎてゆく。

昨日来、晴れ姿を見せていた富 士のお山も午後から徐々にガスが かかりはじめ、頂上部が見えなく なる。歩きやすい道が草原から樹 林帯に続き、出発点の水ケ塚公園 に近いところで朝、歩いた道に合 流する。15:10 公園着。

最近の富士登山はどこから入山 するにせよ、通常は五合目まで車 で入り、そこから歩くというのが 一般的な登山スタイルである。

今回、初めて、中世以来の由緒 ある須山古道を好天に恵まれなが ら歩くことができ得がたい経験で あった。

寄稿二題

オリオン座流星群 ストック考

No.14264 丹 下 洽

オリオン座流星群

10月21日、オリオン座流星群を 見に平尾台茶ヶ床へ行く。

上空は一面の雲、茶ヶ床にちなんで夜の野だてを楽しむが、一向に晴れる気配はない。晴れていれば、夏の大三角形は西へ移り、東から冬の大三角形が昇ってきます。

清少納言が枕草子に「星はすばる、 うしかい」と書いています。「うしかい」は夏の大三角形の鷲座のアルタイルで、悲しい恋の相手「おりひめ」は琴座のベグ、そしてその間を「天の川」が流れています。もう一つは白鳥座のデネブで十字架の形をしています。

12月になると門司港レトロの「跳 ね橋」の北の空に見ることが出来、 クリスマスの頃には「北の十字架」 として観察会が催されました。そし て、白鳥の嘴に二重星が見えます。 これが宮沢賢治の「銀河鉄道の夜」 で有名になったアルビレオです。

冬の大三角形はオリオン座のペテルギウス、大犬座のシリウス、子犬座のプロキオンで、オリオン座の右上空の明るい星アルデバランの更に上に、6~7個の星の集まりが見えます。これがプレアデス星団(和名・すばる)です。美しいものの集まりとか仏像の胸飾りを意味するといわれ、「富士重工スバル」のエンブレムはこれをデザイン化したものです。

秋の天空には、エチオピア王ケフ エウス、高慢な王妃カシオペア、美 女アンドロメダ、勇者ペルセウス、 天馬ペガサス等、ギリシア神話の世 界が展開しています。

関口事務局長が、今夏の白馬山行の折に眺めた星空の素晴らしさを語っておられました。山で夜を過ごす時や、町中でも空気の澄んだ晴れた夜は星空を見上げて、悠久の時の流れに浸ってみては如何でしょうか。もし、幸運にも流れ星を見ることが出来たら、ピノキオの様に「星に願

い」を掛けてみませんか。ヒョッとして願いが叶うかも・・・。

ストック考

先日、NHKテレビで、斜里岳の登 山道が荒廃しているとの報道がありま した。

原因の一つは、ストックにプロテクターを装着しない登山者が多く、石突で植物の根を痛め、浅い表土を突き崩し、更に雨雪が表土を流しやすくする為です。

そこで山岳団体、自然保護団体が協力して、登山口でプロテクターを配布して、自然保護活動のキャンペーンを 始めたとの報道でした。

ストックの普及に大きな影響を及ぼ

した、岩崎元郎氏も著書「登山不適格 者」の中で、「他人にやさしく、自分 にやさしく、自然にやさしく」他人へ の気配りと、自分への安全確保ともう 一つ、自然への配慮だと述べています。 是非、ストックにはノンスリッププロ テクターを着けて頂きたいと思いま す。ただし、登山道凍結はその限りで はありません。 そして、支部へのお 願いですが、多くの登山者個々への協 力要請は困難かも知れませんが、例え ば山の店への協力要請、会員の皆様が 関係する団体などに活動を拡げる、今 春の清掃登山等公共に資する活動の際 にキャンペーンを行うなど、支部とし ての取り組みをして頂ければと考えて おります。

以上10月のサロンで森林保全巡視 員証交付後の席上でのお願いを、会 報に寄稿するようにとのお勧めを頂 き、拙い文章といたしました。よろし くご協力をお願い申し上げます。

傾山 山行記

小さな出来事 大事にならずに!

No.13520 西村信子

11月2~3日のウェストン祭、祖 母山登山に参加後、皆さんと別れて 4日に傾山に登った時の出来事です。

傾山の山頂奥の岩陰で風をよけて 昼食中、前傾の方から「オーイ、オ ーイ、道が分からない、誰かいます か」との声がする。九十九鉱山の駐 車場で先に出発された、福岡から来 たというご夫婦のようである。

「福岡の方ですか」「そうでーす」 との答えが返ってきた。ガスって視 界不良。多分、前傾の分岐で間違っ たのではと思う。通りしな「前傾の 方で助けて、と人の声がする」と若 い男性に話すと「私は救助隊の者で す、こちらは警察の方です」と言い、 一緒に声のする前傾へと向かう。あ たり一面真っ白、何も見えない。途 中「オーイ、聞こえますか」と声を かける。一瞬ガスが晴れて人影が・・・救出。 山頂までの道のりは警察の方にまかせ、食事の続きをしていると「助かりました、命の恩人です」と感謝されたが、助け出された奥さんが「傾山は初めて。三つ坊主は険しいと聞いていたが、思っていたほどではなかったですよ」と他の人に話すのを聞いた。

道間違いで遭難寸前。晴れていれば何とも無かったかも知れない道も、ガスっていれば危険がいっぱい。今、大楠さんの《山の遭難その構図》が北九だよりに掲載されています。〈道に迷ったら引き返せ〉、改めて地図、コンパスの大事さと「山をなめてかかるな!」。これは自分自身にも言い聞かせています。

あのご夫婦は明るい内に無事下山 出来ただろうか?

山の遭難その構図│シリーズ③

No.13465 大楠益弘

『エスケープルートは必ず設定せよ』

「道迷い」についてもう少し触れてみると、迷ったと きにはすぐ動き出さないことを頭に入れておく必要があ る。一度迷いだしたら、長時間彷徨する内に心理的に死 の恐怖、飢餓感、幻覚幻聴に悩まされることになる。冷 静になって5分以上その場にとどまって、これまでのル ートの特徴、引き返し地点を何処までに設定するのか、 その間の目印、地形などをよく考えてから行動を起こす 必要がある。

又、山行中歩いている道がヤブ、クマザサや樹林に消 えてゆくことがある。その時はその場にしゃがんで視線 を低くすると、うっすらと道の読めることがある。ずっ と道が続いているならば中低山である限りは大回りして でもどこか人里に抜け出すことが出来る。

アンケート調査の結果では、登山者のうちコンパス所 持者は30%前後に過ぎない。自ら地図を所持、コンパ スを操作しない限り位置の確認能力の向上を望める筈が ない。この基本動作無くしては「道迷い」の発生抑止は 無理であろう。

登山計画にリスクをどの程度配慮しているのかをチェ ックする簡単な手法にエスケープルートの想定有無があ る。これについてのアンケートでは「考えている」の回 答率は34.3%に過ぎない。「どうにかなる」7.1 %、「全く考えない」17%となっている。パーティで 登山している場合は、予想に反しての山容、ルートの激 変状況、天候の急変、メンバーの体調の不良、怪我など

のためにリスクの増大が予想される。エスケープルー トの設定は必ずしておかねばならない。加えて予定コ ースの地形図での読み取りばかりではなく、周辺コー スまでも検討の対象となるので慎重な地図の読み取り が出来るメリットも出てくる。

次に「年齢と基礎体力」について考えてみる。 まず脚力の低下であるが加齢につれて顕著になる。山 行に支障をきたさないザックの重量(許容可搬重量) はどれ位か。年齢別に見ると50代では15~25kg、 60代では5~15kgとなる。コースの難易度によっ てそれぞれの範囲内で許容重量を決めてゆけば良いの ではないか。事故発生当日(特に転倒事故)遭難者の ザックの重量を量ったところ、許容重量を上回ってい る人が17.8% あったと著者は指摘している。

「視力の低下」は40歳代から始まる。視力問題は 重要な事故発生原因の一つとなっている。組織登山者 の事故態様は、転倒が第1位である。夕方近く、ある いは明度の低下する谷筋では急激な視力低下が起こる。 そのため足下の地形、石、植生、木の根、枯れ葉の状 況が十分に認知できなくなり、とっさの動作が取りに くくなるために転倒するケースが増えてくる。

「既往症の問題点」では、高血圧、高脂血症、糖尿 病などが突然死につながる危険度が高い。医薬品を服 用している場合は必ず常備しておく必要があり、体力 を消耗した段階での低血糖による立ちくらみ転倒の危 険もはらむので、医者に相談をし、充分に指導を受け ておく必要がある。ただし持病がある場合でも登山速 度をコントロールし、十分な休憩を取ることにより治 療効果が期待でき、生き甲斐にもつながることは指摘 しておきたい。

◇◇◇報告・お知らせなど◇◇◇

森林保全巡視員委嘱更新と研修会

No.13465 大楠益弘

去る10月24日(水)、10月末の委嘱期限満了に伴い、 更新の委嘱証明書を授与する会合を開催した。

福岡森林管理署片原流域管理調整官、佐伯主席森林官出 席の下、大庭支部長により授与式が行われた。前任の大谷 城、篠田勝行、森永義忠、日向祥剛の四氏は今回は辞退。 期の途中の楠田和彦氏の逝去は惜しみても余りある。

新しく委嘱を受けた会員は、細川 功、内藤正美、原 野幸雄の三氏であった。引き続き管理署からの話があっ た。それによると管理官の減少にともない巡視活動が手 薄になってきているので、巡視員の情報提供、指導に期 待している。ただし人的トラブルは避け、安全な活動を 心がけて欲しい。又地上デジタル放送開始にともなうテ レビの不法投棄も予想されるので十分な監視をお願いし

たいとのことであった。

藤田グリーンレンジャーの会代表の挨拶の後、亡 くなった楠田副代表の後任の選任に移り、後任に山 田武史氏が満場一致で就任した。(グリーンレンジャ ーの会とは、森林保全巡視員の会の別称)

当日はサロンルームの日でもあったので、すでにコール 天に来店の溝部忠増、牧寛両氏、大木康子嬢にも参加して もらい、懇親会を開始した。久しぶりの顔ぶれもあった。 難病を克服して只今元気印の兼光功、名古屋からの帰任後 多忙中寸暇を割いての江頭精一、レンジャーの会初顔見せ の野見勝巳、相変わらずの先鋭クライマー野島豊、会一番 の若手バリバリの宮城尚志各会員の血気盛んな声で盛り上 がった。終会を宣するのに骨が折れたが、若手で気力十分 の磯野文雄会員の一本締めで一同家路に就いた。

今回委嘱を受けた会員は次の通り。 秦野一彦、大庭常生、関口興洋、末吉史忠、大楠益弘、 原 広美、村上 強、伊藤久次郎、浦田和夫、藤田 傳、西村信子、板倉健一、磯野文雄、太田 満、馬場基介、西村一利、中村昭彦、大城戸昌敏、西村俊二、高畠拓生、宮城尚志、室津健次、山田武史、横山洋子、片山俊昭、片山礼子、江頭精一、兼光 功、舛木 隆、浜松礼子、高城季美子、丹下 洽、丹下香代子、野見勝己、野島 豊、細川 功、内藤正美、原野幸雄、藤田 優、三宅清和以上40人

会員異動

新会員

本部会員

 No.14473
 牧
 寛
 八幡西区

 No.14476
 武
 永
 計
 介
 山口県宇部市

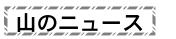
支部会員

北九414 笠 原 佐和子 門司区北九415 木 原 充 小倉北区

福智山「荒宿荘」の補修費募る

11月7日、筑豊山の会の太田徹哉会長がJAC北九州 支部委員会を訪れ、下記のようなお願いの依頼をされた。 なお、支部としては、個人の意思に任せることとした。

解の程宜 豊 並の 願 万5千人をオー 41 ノルプス剣! 太 筑豊山 第97 である女性 田 屋 待 徹 の会 来ま 荒 哉 度 で き





(最近の新聞記事などから抜粋)

剣岳の8人無事救助 大牟田岳稜会

富山県の北アルプス・剣岳で、9月22日に入山して登頂し、下山途中の25日午前8時40分ごろ、「道が分からなくなった」と携帯で救助を求めていた福岡県の大牟田岳稜会の男女8人が26日早朝、富山県山岳警備隊のヘリで救助された。8人にけがはなかった。

(9月26日 西日本新聞)

中央分水嶺の資料が新しく、 利用しやすくなった

『中央分水嶺踏査報告書』(2007年1月発行) 付属の CD-Rにおさめられていた報告書をそのままホームページで見ることが出来るようになった。

北から順に並んだ目次をクリックするだけで簡単に報

告書を見ることができる。実際に会員が歩んだ、信頼できる貴重な資料である。

(10月3日 日本山岳会だより 28号から)

徳本峠登山道の通行止めを解除

長野県は、9月29日、昨年7月の豪雨で被害を受けた松本市安曇野の徳本峠登山道の通行止めを解除した。沢にかかる橋の仮復旧などが進み、歩ける環境が整った、と判断。ただ、復旧後も危険箇所は残る。解除されるのは、島々~二俣~徳本峠間の10キロ。 (10月4日 日本山岳会だより)

谷川岳・慰霊祭

群馬県のみなかみ町で7日「谷川岳遭難者慰霊祭」が開かれた。昭和6年の開山以降、遭難による死者は790人。6日にもロッククライミング中の男性が滑落して死亡。 (10月8日、産経新聞)

未踏峰登頂成功

鳥取の登山愛好家による登山隊が12日、中国青海省の未踏峰・各拉丹冬(グラタンドン)姉妹峰(6543m)に登頂。登山歴20~40年のベテラン5人で平均年齢60歳の熟年登山隊。各拉丹冬姉妹峰は唐古拉(タングラ)山脈にあり、周りには6000メートル級の高峰が聳えている。 (10月13日、産経新聞)

鉄人79歳 2000登山達成 鞍手町の笠間さん

全国の山に登り続けている福岡県鞍手町小牧、笠間長太郎さん (79) が二千山登頂を山梨県の甲斐駒ヶ岳 (2,967m) で達成し、6月に亡くなった最愛の妻康子さんの遺影と記念撮影をした。笠間さんは60歳の時、運動不足解消のため市民マラソン大会に出場するようになった。65歳で出場した長野県のマラソン大会後、御岳 (3,067m) に登ったことで「登山の達成感と素晴らしさを知った」と語る。この登頂をスタートに登山にのめり込み全国の山に登り始めたが、「仲間と遭難した場合、助けるのが難しい」と単独で登山を続けている。 (10月19日 西日本新聞)

携帯のEメールで山の情報、浅間山

浅間山では、携帯カメラでバーコードを読み取って登録し、Eメールで山の情報を得る登山登録システムを採用、現在実用化試験中である。

(10月23日 NHKテレビ 長野小諸局)

男体山、冬ごもりへ

奥日光・男体山の閉山祭が25日日光市の二荒山神社であり、宮司により登拝門が閉じられ、冬ごもりに入った。 (10月26日 毎日新聞)

体験記出版

2月14日、青森の八甲田・前嶽で雪崩による事故 で夫を亡くした小菅さんの体験記「雪煙」が11月下 旬出版の予定。「山スキーをする人には是非読んで欲しい、 山に関係なく家族を亡くされた方にも読んで欲しい」と 語っている。(10月30日 毎日新聞)

祖母山登山情報

前号でも書いたが、依然として尾平~尾平トンネル 間は通行禁止が続いている。尾平トンネルまでは県道 部分のみ歩行者含めて通行止め。

(10月31日 H・P祖母傾最新情報より)

モンブランの頂上に 念願のトイレ 欧州で最高所

登山客の排せつ物で汚れていた欧州最高峰モンブラン (4,808m)の頂上近くに、この程念願のトイレが誕生した。 トイレは地元の村などが、標高4,360mにある山小屋前に 約2,440万円かけて建設。くみ取り式で、排せつ物を入れ た袋は夏の登山シーズン後、ヘリコプターで降ろされる。 モンブランには毎年3万人近い登山客が押し寄せ、トイ レのない頂上付近は排せつ物などによる深刻な環境汚染 (10月 朝日新聞) に悩まされていた。

JACホームページのトップに英彦山が

日本山岳会のホームページでは、今秋から「支部の山」 というテーマで、各支部の自慢の山、とっておきの山、絵 になる山などをトップページで紹介している。

第一弾は、山陰支部の紹介による大山が掲載された が、第二弾として北九州支部紹介による英彦山(伊藤 久次郎の木版画7点)が掲載されている。引き続き11 月13日(更新)から、第三弾として現在は青森支部の岩 木山(写真)が掲載中。支部の山を開けばさかのぼって見 ることが出来る。 (JACホームページ)

世界の山岳ガイド集合 松本で国際連盟年次総会

世界の山岳ガイド団体の代表が集う「国際山岳ガイド連 盟年次総会」が11月12日、13日の2日間、松本市の県松 本文化会館で開催された。総会は毎年世界各国で持ち回り で開催されているが、日本で開催されたのは初めて。

総会は松本市制百周年に合わせ、日本山岳ガイド協会な どが誘致した。12日は総会の国際技術委員会が開かれ約4 0人が参加。山岳ガイドの技術や安全管理の方法論、ガイ ド養成などについて、各国の仕組みを共通化することなど を話し合った。13日の年次総会では、同連盟の活動方針全 般について議論された。 (11月13日 東京新聞)

霧島山は、活火山? 10代の45%「知らなかった」

宮崎県都城市の都城農高農業土木課の3年生8人 が、住民の火山防災意識を探るため、霧島山周辺の住 民を対象に実施したアンケートで、霧島山が活火山だ と知らない人が32.9%、特に10代では45.1%と 半数近くに上ることが分かった。噴火の影響範囲や避 難所などを示した火山防災マップの認知度も低く、 霧島山の火山防災に大きな課題を突きつける形とな った。

宮崎、鹿児島両県の関係自治体は、来年度以降 の公表をめどに霧島山の新たな火山防災マップ作 りを進めている。マップを生かすためにも、住民がま ず、活火山としての霧島山を知ることが重要である。

(11月15日 毎日新聞)

大台ヶ原、一部立ち入り禁止

大台ヶ原で装薬銃によるニホンジカ捕獲。危 険なため、捕獲場所の立ち入りが禁止された。

期間:12月1日~9日までの間 場所:大台ヶ原ビジターセンター周辺

問い合わせ:06-4790-0706

近畿地方環境事務所野生生物課 (11月18日 日本山岳会だより029号)

冬の"流儀なき富士登山"に警鐘 若者救出騒動

11月5日、若者4人が「思い出づくりに」と軽く考 え、何の装備も持たず冬の富士山登頂に挑戦した。途 中、アイスバーンに阻まれて遭難、山梨県防災ヘリに 救助された。

遭難した4人は東京都町田市の大学生やアルバイト 店員20歳から25歳の青年。「来年4月に大学を卒業 すると離ればなれになる。思い出づくりに富士山へ登 ろう」となった。午前4時半ごろ、山梨県側富士山有 料道路「富士スバルライン」終点5合目に到着。ロー タリー脇のハイキングコースをたどり山頂を目指した。 登り始めて約6時間。すでに4人は吉田大沢西の白山 岳直下、9合目にいた。1人が「頭が痛い」といいだ し、登頂をあきらめ下山しようと思ったが、すでに辺 りはアイスバーンと化した。

青年たちの服装は、この時期の富士山9合目では場 違いなジーンズ、ジャンパー、スニーカーなど。アイ ゼン、ピッケルなど冬山装備品を持っていない4人が 凍りついた急斜面を下りることなど不可能。滑る足元 に恐怖を感じ、1人が携帯電話で110番通報。標高3 570m地点で県防災ヘリに救助される始末となり、と んだ思い出づくりとなった。(11月19日 産経新聞)

初雪を観測 長野地方気象台発表

長野地方気象台は18日、初雪を観測したと発表した。 平年より2日、昨年より13日早い。 同日午後8時現 在で野沢温泉、信濃町、小谷、菅平の各観測所で積雪 を確認した。

また県大町建設事務所は降雪のためスリップの恐れ があるとして、県道白馬岳線の白馬村北城猿倉~同村 北城二股間を同日から当分の間、全面通行止めとした。

(11月19日 東京新聞)

山行計画のご案内

JAC北九だより 第38号

12月の山行

支部忘年山行(12/8~9) 九重法華院温泉泊

今年は趣向を変えて、町中の会場ではなく山の湯宿 で忘年会を開催します。雪見酒を期待して多数のご参加 をお待ちします。

日程:平成19年12月8日(土)~9日(日)

場所:九重法華院温泉山荘

費用:約15000円(1泊2食付・往復バス代含む) バス代は参加人数次第で変動しますので予めご 了承ください。マイカーの方は、10000円。

行程:8日小倉駅北口(新幹線側)出発8:00 am

長者原着 11:30/12:00、雨ガ池越え経由

法華院温泉山荘着15:00

9日北千里~久住分かれ~星生山~大曲り~ 長者原

申し込み先:事務局(関口宛)

fax番号 093-382-6436

申し込み期限:12月3日(月)

1月の山行

英彦山おでん登山(1/12)

き:2008年1月12日(土)

集合場所: JR彦山駅 AM8時45分

又は別所駐車場AM9時15分

なお彦山駅からは添田町営バスを利用出来る。

申 込:伊藤久次郎(0947-42-2772又は090-88

37-2696又はEメール)

切:12月末

FPMC (福岡県警登山同好会) 恒例の新年おでん登山 に合同で参加します。下山後は、「英彦山しゃくなげ荘」 で入浴し、彦山駅前の「駒どり」(0947-85-0745)で新年 会を開催します。会費3,000円。新年会参加者は、JR とバスを利用のこと。

サロン ルーム 毎月第4水曜日

毎回盛況!

12月の小倉サロンは、お休み 1月のサロン (新年会) は、23日(水)

午後6時30分から

小倉北区魚町「コール天」 場所

(魚町銀天街、酒房武蔵より西へ約30m)

費用 3,000円前後(ワリカン制です)

|博多サロン|(忘年会)

期日 12月22日(土) 午後6時から

場所 福岡市以下未定 (参加者には後日連絡します)

申込 伊藤Qまで(電話、FAX、メールなど)

費用 5,000円位

2月の山行

大山冬山登山(2/8~11)・テント泊 中国地方の最高峰「伯耆大山」

日 程:2008年2月8日(金)~11日(月・祭) 目的地:鳥取県「大山」(雪上訓練と登山) 行程:2月8日(金)小倉駅前発23:45 (始発は天神バスセンター22:10)

2月9日(土) 米子駅前着06:16

大山寺へ到着後、テント設営・雪上訓練

2月10日(日)大山登山、米子駅前発22:30

2月11日(月) 小倉駅前着05:55

天神バスセンター着 07:20

費用概算:交通費約17,000円(福岡・小倉〜米子〜大

山寺往復バス代)。食料費は実費精算。

申込先:板倉健一(山行リーダー)

FAX(会社)093-331-1032

〆切り:2007年12月25日 (火)

3月の山行

1、由布岳山岳訓練(3/15~16)

早春の由布岳で基礎トレーニングを行います。湯布院の 合宿なので、座学を含めみっちり学習が出来ると思います。 詳細は「北九だより」1月号に掲載します。お楽しみに。

日程: 平成20年(2008年) 3月15日(土)~16日(日)

目的地:大分県「由布岳」

宿泊先:由布院山荘0977-84-2563

費用:5,000円程度

担当 大楠益弘

2、信州「雨飾山」スノーハイク(3/13~16)

3月の山行に支部では、初のスノーハイクを計画しまし た。場所は信州でも雪深い里として知られる北安曇郡小谷 村です。主フィールドは、百名山の雨飾山を選びました。 道具は、レンタルできますので、初めての方も安心して参 加できます。

日程: '08年3月13日(木)~16日(日)3泊4日 場所:長野県小谷村「雨飾」、塩の道(予定) 現地での日程:

14日(金) 雨飾山スノーハイク(9:00~15:00)

15日(土) スノーハイク組:塩の道ウオーク スキー組:栂池スキー場

問い合わせ先:大庭090-5029-9949まで

※詳細は、「北九だより」1月号で

編集後記

○ 最近は北九だよりの発行が遅れ 気味です。原稿を書いて下さる方

は、なるべく早く書いて送って下さい。次回の原稿〆 切は12月25日と致します。それまでに、山行記、 山のニュース、その他の原稿など送って下さい。 よろしくお願いします。

○ 山の原稿は、事務局(関口事務局長)又は 〒826-0032 田川市西平松11-8 伊藤久次郎宛。 TEL/Fax 0947-42-2772

Eメール原稿は、

アドレス rw4ux6@bma.biglobe.ne.jp です。 デジカメ写真は、縮小せず添付で送ってください。